





撰集抄第四目錄

- 一 唯雲大僧正奉一 天竺聖王
- 二 夢作阿闍梨入唐留奉
- 三 永眼大僧都遁世奉
- 四 大僧三郎近宗見書阿志志及心奉
- 五 内記入道保解奉
- 六 永縁僧正遁世奉
- 七 乞食僧向覺尊哥禱奉
- 八 中納言房小倉山持藤住奉
- 九 西山僧進大寺殿不來奉
- 十 勝劣阿闍梨及僧尼及奉

西行記



撰集抄第四目錄

せちけつ時々代者と言へば有りもの罪を思へく
 帯より心と健して念仏をぞ申付たりかくして年
 月とすべし程よすお若衆もや付らん自然行き
 けりけり如し一もの事とすなりありあり言へり
 版をく時悲乃がのおおびくくあつぬれあけきり
 ありぬらんけりくく時様くしてけりくくおなす給
 おくく自切多押切くもぬく志わりきして念仏
 侍ありかりの善悪くはよかりけりくくぬれぬや道
 んすけりなくんく侍ありたりわらわらりゆきくを
 物ありぐく一海の方よ海留て人自ぬぬすす
 海より善の善法結びては。居候志あり。

志よりあきり衣のまじはるりおあは。海でうり
 物も侍ぶりあり。明善の念事。人の善に
 て。どくくしてそる。或時人の念法持く。約を
 事あれだ。今日より明日は。お入。ぬひそ。ちく
 けり。ま。き。事。侍。く。ま。は。ら。り。と。事。う。け。
 て。物。束。の。ま。し。お。め。日。い。さ。と。入。侍。く。ど。が。く。て。み
 日。す。ぐ。ら。う。や。お。そ。ま。き。と。お。日。の。朝。う。れ。事。よ。約。て。見
 者。れ。だ。あ。よ。ひ。ひ。て。お。り。り。あ。り。そ。の。す。か。い。さ。ん
 家。分。ご。と。難。を。か。り。あ。り。事。ゆ。れ。侍。く。ど
 や。お。お。ま。れ。ま。す。つ。つ。人。も。さ。び。う。や。れ。い。さ。り。や。ぬ
 っ。い。さ。ら。う。は。思。い。う。ら。る。れ。あ。ま。て。時。悲。を。懸。て。す。こ

びさきふ枝葉のおろがね風よかりくば枝がく
 かりがねのさのぐかり極よがふく思付物
 けさるがかりてさし海よふけすハ唯獄と
 へくよあつかりべし。さくさくさくさくさく
 けのよまねと不ぞつかりよあつす。唯獄
 の親とくし路ありんがら信のまじ。わ
 せくさ感あり。述とくかひて。えびら
 ぬ懐のまねよあつらん。さくさくさくさく
 八 中納言局小倉山林麻作事
 待賢門院の中納言局の女房たりし御まき女
 院のたらしまのせりれく後さ海とく小倉乃山

少くもねれも申てたり。侍まじくけあつり
 ぐも月乃始けく。のささよあつりくま
 き。草少くあつりあひく。けく道もねま
 ぐす花をさげくて。ねまがれも林乃月す
 ころ。あは野をけす山落るれど。ねま物あ
 せよ。あはね乃始けく。さす。萩の上風物
 け。あはね乃始けく。さす。萩の上風物
 さす。あはね乃始けく。さす。萩の上風物
 出付し物あつり。女院のさ事。れま。あ
 つり。あはね乃始けく。さす。萩の上風物
 誰くのく。あはね乃始けく。さす。萩の上風物

あり向ひの香のほのりてくはれとてはなりのまじり
 やまのりありのりたれを何よりも若干乃室はひ
 さびるんはれとてはれとてあはれとて浮世と離る
 かんじらとてはれもん難あはれははれとてやまのり
 新書とてまのりて極深意のほおもはれとてはれ
 うとてさるは色雀の破易蜂のたぐひなりとてはれ
 あまてしおはれとてはれとてはれとてはれとてはれ
 思ひながるるおはれ乃安見のあはれとてはれとてはれ
 おはれとてはれ乃安見とてはれとてはれとてはれ
 物とてはれとてはれとてはれとてはれとてはれ
 ても他国忠勤乃そのりてはれとてはれとてはれとてはれ

月乃妹ハ廣澤の池乃やりのりてはれとてはれとてはれ
 とてはれ乃のりてはれとてはれとてはれとてはれ
 新とてはれ乃のりてはれとてはれとてはれとてはれ
 てはれとてはれ乃のりてはれとてはれとてはれとてはれ
 子とてはれ乃のりてはれとてはれとてはれとてはれ
 のりてはれ乃のりてはれとてはれとてはれとてはれ
 今乃疎別とてはれ乃のりてはれとてはれとてはれとてはれ
 てはれとてはれ乃のりてはれとてはれとてはれとてはれ
 十三 には遊女本
 治承二年長月の法成殿とてはれとてはれとてはれとてはれ
 ひりてはれ乃のりてはれとてはれとてはれとてはれとてはれ

集巻の十四

十一

さびてわらわら走りてさびしき行もあはれ。

さびしき座敷のまはりのさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしきさびしき

月かりのさびしきさびしきさびしき

と付ゆるさびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしき

と付ゆるさびしきさびしきさびしき

都のさびしきさびしきさびしき

と付ゆるさびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしきさびしき

のさびしきさびしきさびしきさびしき

十四 教諭并定作宮本

あはれさびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしきさびしき

さびしきさびしきさびしきさびしきさびしき

【五】春日冬結事一西行

おろしはなすれ京巡礼一して。春日の御社より
 侍りて。春日野のあし。二畧れ塔のまはりて。御
 の橋は是も。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 す。これ。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 ろり。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 お。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 じ。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 らり。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 唐して。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 お。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。

ま。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 道。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 く。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 り。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 く。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 も。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 ら。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 物。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 横。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 山。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。
 又。春日の御社より。春日の御社より。春日の御社より。

ろー。うはうさうさ。思卿雲客乃花の神かみすさ
 おあつらふき。あつらひて風夜かぜやせし。さのひさ
 とのつと。明都あきつ志しつ。いさひす。すし。あんあ枝えと海
 ろ。れん。夷や乃年。秋七月。東。あ。人志しひひすりて。去
 宗陽そうやう孝妃きうひ。整ととりて。夫おは。か。あ。う。は。比翼ひよく乃名な。う。う。
 じ。地ちは。す。ま。ま。ば。連れん理りの枝えと。な。ん。と。整ととり。終し。む
 の。び。と。あ。も。福ふく山さんが。は。あ。お。う。と。う。ま。う。う。前まへ後ごあ。と。
 ま。う。ん。終し。一。お。も。は。い。う。お。と。整ととり。ま。う。し。く。ま。う。そ。や。
 其その又またま。ま。て。げ。か。も。海うみ。ま。ま。は。り。り。一。女め院いん乃。儀ぎ
 乃。息いき。ゆ。て。し。ま。そ。か。り。あ。り。ま。事こと。逃にげ。く。あ。あ。後ご
 冷泉院れいせんいんり。くれ。を。終し。く。日ひ。後ご。三。條院さんじょういん位い。お。は。ら。終し。

終し。一。う。へ。づ。方かたの儀ぎ。お。目め。和わ。度ど。一。方かたの款けん。乃。儀ぎ。お。志し。や
 ぬ。れ。し。り。い。い。と。う。さ。う。乃。位い。お。し。ま。う。と。う。れ。だ。ぬ。う。り
 を。を。帯おび。れ。鬼おに。お。う。と。う。終し。り。一。夫お。其その。ま。ま。相あひ。あ。り。も。
 物ものの。中なかの。款けん。が。げ。さ。ん。中なかの。物もの。が。ま。う。感かん。衰すい。乃
 ぬ。あ。一。款けん。も。と。り。り。あ。り。物もの。も。又また。も。あ。り。其その。ま。ま。
 あ。つ。た。す。り。と。安やす。事こと。ゆ。と。後ご。三。條院さんじょういん位い。お。ま。う。
 く。ま。う。い。い。あ。あ。ま。ま。ゆ。う。ひ。い。と。あ。く。の。ま。ま。そ。か。り
 ひ。と。い。と。う。と。下した。物もの。あ。つ。り。一。種しゆ。の。儀ぎ。お。は。ら。終し。と。て。
 延えん。久きう。乃。わ。り。り。乃。年ねん。と。海うみ。不ふ。議ぎ。お。の。ま。ま。そ。か。り。あ。り。が。
 け。わ。お。あ。月つきの。と。乃。ち。う。り。り。お。と。て。乃。山さん。物もの。の。な。れ。る。
 お。は。ら。そ。り。終し。お。う。り。も。う。れ。は。ら。さ。の。款けん。い。い。終し。村むら。と。

青うすんとのろせほくろぬ誰とたのむらびの
 わまてうかまもろくしん年れ懸よりらとひぬ
 まさつらうとていふお明り年の林又た二條
 殿えたりまもすよりぬまらとせらるけい
 けいせとせらる後三條院乃廿三年の清弘奉あり
 しまし教へぬとありまらぬ世の中りあ誰り
 一人として母世にゆりりて居ある王母一
 万乃割美夏のてかかんと思ふ令りあ
 かていふとまらまら一とていふ
 任者の暇非ぬか母とゆへすか
 みと百乃令とやと百奉すくら程か

今の時一は百ひとるんそのほあるくら
 しむる一いんや老のあまのさうひとや令
 び奉る今日もや明日もやあるを奉る
 深きけいあや誰う是とまらん
 ちんしなうがたう後せ乃ぬあはあまら
 五帝の理はなれまらんおひてこれと
 す。知りてあまらんとすをれや中一
 もつげるとぬれ行末とそそのひきもあ
 ぬ一頭の香とらびふらなうけさ
 とまらばらうとまらなうとぬらとぬのむ
 きふあめ世の事なり。探地乃かぬ

一、西位上人性生中
 二、西位上人性生中
 三、西位上人性生中
 四、西位上人性生中
 五、西位上人性生中
 六、西位上人性生中
 七、西位上人性生中
 八、西位上人性生中
 九、西位上人性生中



撰集抄第五回縁

馬形記

- 一 西位上人性生中
- 二 西位上人性生中
- 三 西位上人性生中
- 四 西位上人性生中
- 五 西位上人性生中
- 六 西位上人性生中
- 七 西位上人性生中
- 八 西位上人性生中
- 九 西位上人性生中

撰集抄

五十一

徳集抄第五

一 西仙上人之事

是なる八月のうづめはうゝ船は西仙上人と侍ひ
 難波乃るころもさる侍に打し一日のうゝあ
 ましゆもたら侍しゆは物もさるうゝひくま
 のんれましくはゆかうおちかくれ魚取はしんあ
 ひごんやぶさや此舟りのうゝはうゝれたあゝ念仏
 まくば世もらんといふだまきあへるといふはあさ
 ゆうりあゆまもまも。舟りはせぬといふうゝ。あま
 物もる舟もて舟りなるはあゝも。あまひくは
 のうら侍しんといふ。あまがら舟りのうゝ。はあま侍うま

徳集抄第五

五

花の下りげさうらほさみ孫くまなり。神皇正統記
 えて侍りききぬるみちすくく。神皇正統記
 古海もさうらうまもく侍りて。仙洞君勳れをのりこよ
 直徳五郎依れいまそ。神皇正統記
 不くもつふなひつ事侍らう。神皇正統記
 ともえ有くくもえて侍りて。神皇正統記
 かくくくく。神皇正統記
 ろよんくく。神皇正統記
 越くく。神皇正統記
 ちうく。神皇正統記
 かくく。神皇正統記

あくく。神皇正統記
 くく。神皇正統記
 の。神皇正統記
 幸。神皇正統記
 也。神皇正統記
 在。神皇正統記
 と。神皇正統記
 く。神皇正統記
 也。神皇正統記
 ち。神皇正統記
 実。神皇正統記

おんまゝもまゝとて神の御事うゝおんまゝとて
よもやまゝとて神の御事うゝおんまゝとて
ありてはうゝせ給うとてはうゝもあなりなりが
なく我を侍るまゝとておのりなり。道あるものなり。
大まにまゝとてせ給うなり。実一切の生は神の御事
を御事とてまゝとて神の御事とてはうゝもあなりなりが
の中へまゝとてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが
くはうゝとてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが
おゝとてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが
とてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが
おゝとてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが

申すに地へ焼くしむひぬるまゝはうゝなり
うさうん。又火の中へまゝとてはうゝなり
ん。母あゝとてはうゝなり。神の御事とてはうゝなり
かゝはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが
有りあゝとてはうゝなり。神の御事とてはうゝなり
まゝとてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが
まゝとてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが
まゝとてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが
まゝとてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが
まゝとてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが
まゝとてはうゝなり。まゝとてはうゝもあなりなりが

養持六十五

あつたに、海やとあるは、まよまのあつたに、内記を
とす、ゆるるとは、さしけゆるるを、かこしけらる、信
らま、後部、かこも、まう、実れ、の、さ、信、の、ゆる、れ、
非、も、ま、あ、り、す、い、め、や、ま、ゆ、か、り、し、え、実、あ、ま、り、そ、う
ゆ、り、一、ふ、は、あ、め、く、さ、あ、く、さ、先、月、た、れ、信、の、あ、ま、
く、く、ま、世、ス、い、ん、ま、ま、ま、あ、め、た、の、ま、り、

五 徳川後山居御室

永曆乃、と、ま、の、八、月、た、れ、信、徳、國、依、於、の、ま、り、
と、信、ま、り、一、り、た、あ、ま、に、向、向、く、ひ、乃、者、一、ま、
よ、り、た、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
能、個、一、信、ま、り、玉、料、乃、ゆ、ま、り、み、ら、れ、は、ま、り、

ま、り、一、あ、く、は、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
よ、か、あ、り、ん、と、有、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
す、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
君、も、信、信、あり、鈴、屋、十、何、ま、り、あ、ま、り、ま、ま、ま、ま、
ら、ん、と、い、ん、と、あ、ま、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
あ、ま、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
す、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

茂、一、あ、ま、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
一、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
山、陰、乃、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

たなをいろうれ又やういふゆれぬを戸にき

落れぬがあこりあくるそふ蘭あけうをまへこ

花ものをも命一又萩の戸もな

たなはゆがたの萩一昨日乃同くいふぬあを

まふたあこりか又萩花れさけのま

女は花たうる一ゆがたの萩はなはゆがたの

あそらうぬ又萩乃さけのま

萩の屯うらうらふ萩萩萩は下葉とまへてあ

まをまけくさうまをれはまはまへて萩萩萩

あこりあこり一まをまへてあこりあこりあ

まをまへてあこりあこりあこりあこりあ

とげうらうらふ萩萩萩は下葉とまへてあ

はあこりあこりあこりあこりあこりあ

あこりあこりあこりあこりあこりあ

あこりあこりあこりあこりあこりあ

あこりあこりあこりあこりあこりあ

あこりあこりあこりあこりあこりあ

あこりあこりあこりあこりあこりあ

あこりあこりあこりあこりあこりあ

あこりあこりあこりあこりあこりあ

あこりあこりあこりあこりあこりあ

あこりあこりあこりあこりあこりあ

このまゝに思ひしよるまゝにみまはるゝありてはなほ
福なるやうに思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。本村は
紙より札に付まはるゝ

しつゝ此のやまの身よりあつたれははる月
とせつりまゝに思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。あつた
りけり。かゝるに思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
急ぎ行つて思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
て観測しよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ

まはるゝ思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ

被りしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ
思ひしよるまゝに思ひしよる人なり。思ひ

本村は

十

稽ふとあやましくまじはる。又くい物なるがと討いほし
 まよき喜みのまりて書れさくく。白文物成り
 めむめしきけはくわふ成りきた物れはくしとてさく
 けらるんことりしとてく小仙人たんとなりたるに書あまや
 天徳喜子てんとくきこ以為給仕の妙文まうもんおとに有るこく我ける。
 讀誦よみ忘わすれらるんこと。無智むちれりの如るくす巨益こきやくり
 あつらるるゆりける。此こゝをこゝと書きりおりし事り。
 ちの阿事あじとて。讀誦よみのりまはのりまて改かへり仙せんとれ
 におあつるゆり入るるゆりまかくおこくはみしと人
 わさつてん侍りぬ。まにまにゆり縁ゆかり起おこ難がた思おもれちるる。
 ひまか〜とてん侍り世りはくす〜とてん侍り〜

書井とてん侍りくまにりる。社やしろりんをさけし〜と
 のつらりま書かまされさ根ねりゆひ神かみの毛けと書かんる
 乃すなはちやめはりしよ我われて日ひ教をはけりること思おもひ
 へはるるまゝとてむら〜と世よとくれぬ入り
 身みのぞろぬと世よとて思おもひなり〜とが〜業わざつ乃すなはち
 いかなりゆ〜と達たつ王わうたれ目め成なりと書か〜成なりれ書かま
 をまらしてす〜の善ぜん根ねと〜侍りぬと思おもひ
 かなはは書かれ成なりま〜りけな〜とあら〜して。何
 くらまのより思おもひするた侍る。抄しょうあ〜と書か上かみ念ねん
 されと乃すなはちば國くにれ被ま良らるんこと縁ゆかりをむしむ
 なる〜と〜とや〜とゆり〜と縁ゆかり成なりの教を〜と〜と

御伊弉册五

十三

八幡のしりあやの又理整えしりののちのりも。さきも月く
 ゆるやうにうひーくはあまの道徳たうらうにうひ
 ほうのまなりがう。しけるくと清涼殿の月夜秋を
 ずうめ姑射山のお葉と年よるくと又信る。さうのり
 位に系うりつるまうくゆるうかたうけうらうとあまの近
 事代はのくさあうーしゆ齡あまうらうくさまひ
 うけ世れを常久の思ひーまてあけりけりまうく
 とまかよはれん年ちうれ金利のありー甲ーゆるらうど
 とまうくゆるうくゆるうけりまうとまうはまあまはら
 まかうのーさうせー。さうしとまうゆるし候れせれまう
 ゆるあ。おんーしとまうはまあまはらうれまうらう大あま

おりくる。あうー。ゆるらうけゆるあうらうらうらうらうらう
 うけれうーあうとまうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 の持れ者にもゆれらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 とまうらうらうらうらう。世に位入候し一皇帝はまうらう
 よまうらうらうらうらう。浮世のうらうらうらうらうらうらうらうらう
 とまうらうらうらうらうらう。やうらうらうらうらうらうらうらうらう
 とまうらうらうらうらうらう。今おれらうらうらうらうらうらうらうらう
 わらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 色道やうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 せうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 のあうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう



